

令和 7 年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書

(対象年度：令和 6 年度)

令和 7 年 12 月

普 代 村 教 育 委 員 会

－ 目 次 －

I	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	
2	点検及び評価の実施方法について	
3	議会への提出及び公表について	
II	令和6年度教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2～4
1	教育長及び教育委員	
2	教育委員会会議の開催状況及び審議案件一覧	
3	教育委員会会議以外の主な活動状況	
4	教育委員会の活動状況の評価	
III	点検及び評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5～43
IV	その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44～46
1	第2期普代村教育大綱	
2	普代村教育委員会の点検・評価実施要領	

I はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会の責任体制の明確化を目的として、同法に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成 20 年 4 月から教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

2 点検及び評価の実施方法について

令和 7 年度に実施する点検及び評価は、令和 6 年度事業を対象とし、第 2 期普代村教育大綱の教育ビジョンである「普代型スクール・コミュニティ」の実現に向けて取り組んでいる 3 項目の基本方針及び 11 項目の基本施策を推進するための具体的な取組 27 項目の成果と課題等をまとめ、実施状況及び実績を明らかにし、今後の課題等を示すため自己評価を行いました。

その後、点検及び評価の客観性を確保するため、教育委員会が委嘱した普代村教育委員会事務点検評価委員に、ご意見、ご助言をいただきました。

普代村教育委員会事務点検評価委員及び審議経過は次のとおりです。

【普代村教育委員会事務点検評価委員】

梶 谷 幸 正 氏 （学校教育分野）

金 子 小 夜 氏 （社会教育分野）

佐々木 健 一 氏 （地域住民代表）

【審議経過】

令和 7 年 8 月 29 日（金曜日） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

・教育委員会が行う事務事業の概略説明と質疑応答

令和 7 年 12 月 22 日（月曜日） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

・点検評価委員からの総括的意見の聴取

令和 7 年 12 月 25 日（木曜日） 午後 4 時 00 分～午後 5 時 15 分

・教育委員会 12 月定例会議において、報告書を審議し議決

3 議会への提出及び公表について

本報告書は、点検及び評価の結果をまとめたものであり、村議会へ提出するとともに公表することにより、透明性を高め、効率的・効果的な事務改善に努めたいと考えます。公表に際しては、普代村教育委員会ホームページに掲載します。

II 令和 6 年度教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

役職名	氏 名	就任年月日	任 期
教 育 長	三 船 雄 三	平成 26 年 4 月 2 日	平成 2 6 年 4 月 2 日～平成 3 0 年 3 月 3 1 日 平成 3 0 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日 令和 3 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日 令和 6 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 3 1 日
委 員 (教育長職務代理者)	中 村 英 伸	令和 3 年 7 月 1 日	令和 3 年 7 月 1 日～令和 6 年 9 月 3 0 日 令和 6 年 7 月 1 日～令和 1 0 年 9 月 3 0 日
委 員	熊 谷 榮 子	平成 8 年 10 月 1 日	平成 8 年 1 0 月 1 日～平成 1 2 年 9 月 3 0 日 平成 1 2 年 1 0 月 1 日～平成 1 6 年 9 月 3 0 日 平成 1 6 年 1 0 月 1 日～平成 2 0 年 9 月 3 0 日 平成 2 0 年 1 0 月 1 日～平成 2 4 年 9 月 3 0 日 平成 2 4 年 1 0 月 1 日～平成 2 8 年 9 月 3 0 日 平成 2 8 年 1 0 月 1 日～令和 1 年 9 月 3 0 日 令和 1 年 1 0 月 1 日～令和 5 年 9 月 3 0 日 令和 5 年 1 0 月 1 日～令和 9 年 9 月 3 0 日
委 員	畠 山 智 美	令和 2 年 1 月 1 日	令和 2 年 1 月 1 日～令和 4 年 9 月 3 0 日 令和 4 年 1 0 月 1 日～令和 8 年 9 月 3 0 日
委 員	大 村 克 伸	令和 5 年 10 月 1 日	令和 5 年 1 0 月 1 日～令和 7 年 9 月 3 0 日 令和 7 年 1 0 月 1 日～令和 1 0 年 9 月 3 0 日

2 教育委員会会議の開催状況及び審議案件一覧

開催月	番号	審議案件
4 月定例 (4/26)	議案 1	令和 6 年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について
	議案 2	普代村社会教育委員の委嘱について
	議案 3	普代村スポーツ推進委員の委嘱について
	議案 4	普代村学校給食センター運営委員の任命について
	議案 5	普代村学校運営協議会委員の任命について
5 月定例 (5/29)	報告 1	小中学校事務共同実施組織の副総括の任命について
	報告 2	普代村部活動地域移行連絡協議会設置要綱の制定について
	報告 3	普代村部活動地域移行連絡協議会委員の委嘱について
	議案 1	普代村教育委員会事務点検評価委員の委嘱について
	議案 2	普代村学校運営協議会委員（追加）の任命について
	議案 3	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 2 号）について
6 月定例 (6/27)		※審議案件はなし
7 月定例 (7/26)	議案 1	令和 7 年度使用中学校教科用図書の採択について
	議案 2	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 3 号）について
8 月定例 (8/30)		※審議案件はなし

開催月	番号	審議案件
9月定例（9/25）	報告 1	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 4 号）について
10 月定例（10/31）	議案 1	令和 6 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和 5 年度事務事業）について
	議案 2	普代村教育委員会の所管に属する職員の任免について
11 月定例（11/29）	議案 1	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 6 号）について
12 月定例（12/25）		※審議案件はなし
1 月定例（1/30）	報告 1	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 7 号）について
	議案 1	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 8 号）について
2 月定例（2/28）	議案 1	令和 7 年度普代村教育行政基本方針について
	議案 2	令和 7 年度普代村一般会計予算について
	議案 3	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 9 号）について
	議案 4	県費負担教職員の令和 7 年度定期人事異動内申について
	議案 5	令和 7 年度学校給食費の基準額について
	議案 6	令和 7 年度認定こども園給食費等の基準額について
	議案 7	令和 7 年度入学前支給要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について
3 月定例（3/26）	議案 1	事務局職員の人事について
	議案 2	令和 6 年度普代村一般会計補正予算（第 10 号）について
	議案 3	普代村立小中学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について

3 教育委員会会議以外の主な活動状況

実施日	参加行事	内容
4 月 4 日	令和 6 年度普代中学校入学式	式典への出席
4 月 5 日	令和 6 年度はまゆり子ども園入園式	式典への出席
4 月 8 日	令和 6 年度普代小学校入学式	式典への出席
5 月 9 日～10 日	東北町村教育長連絡協議会定期総会・研究大会	会議等への出席
5 月 13 日～15 日	全国町村教育長定期総会・研究大会	会議等への出席
5 月 20 日	久慈地方教育委員会協議会定例会	会議への出席
5 月 30 日～31 日	岩手県市町村教育委員会協議会定期総会	会議への出席
6 月 25 日	第 1 回義務教育学校開校準備委員会	会議への出席
7 月 4 日	小中合同地区懇談会（移動教育委員会懇談会）	行事への出席
7 月 11 日～12 日	東北六県市町村教育長・教育委員研修会	研修への参加
8 月 22 日	第 2 回義務教育学校開校準備委員会	会議への出席
10 月 11 日	岩手県市町村教育委員会協議会教育委員部会研修会	研修への参加
10 月 24 日～25 日	岩手県市町村教育委員会協議会教育長部会研修会	研修への参加

実施日	参加行事	内容
1月5日	普代村二十歳のつどい	式典への出席
1月14日	岩手県教育振興運動60周年記念大会	式典への出席
1月30日	第3回義務教育学校開校準備委員会	会議への出席
2月8日	普代村教育振興運動推進大会	行事への出席
3月8日	普代中学校卒業式	式典への出席
3月15日	普代小学校卒業式	式典への出席
3月19日	はまゆり子ども園卒園式	式典への出席

4 教育委員会の活動状況の評価

【評価】

教育委員会会議については、毎月1回、開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会（令和6年度は開催実績なし）があり、教育に関する様々な案件について検討し、議決を行いました。

定例会については、議案、協議事項の審議及び報告について厳正に行われ、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われました。

また、定例会会議録をホームページに掲載するとともに、例年実施している小中合同地区懇談会（移動教育委員会）への出席及び新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた学校訪問の実施等により、小・中学校の経営状況や児童生徒の学習と成長、そして、教職員の働き方や育成に関わる様々な現状把握に努めることができました。

【今後の取組】

学校訪問、教職員との意見交換、各種会議への出席等を積極的に行い、子どもたちの教育環境の改善はもとより、社会全体の教育の推進に努めます。

また、総合教育会議（令和6年度は開催実績なし）等を通し、首長と教育委員会が重点的に講ずるべき施策等について引き続き協議・調整を行い、次期普代村教育大綱を包含する「第1期普代村教育振興基本計画」の策定に向け、より一層民意を反映した教育行政の実現を目指します。

Ⅲ 点検及び評価

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）一覧

普代村教育大綱に基づく施策・事業	自己評価	委員評価	今後の方針
基本方針 1 健康な体・豊かな心を育む就学前教育を充実する（就学前教育）			
1 普代村幼・小連携教育研修会	B	B	3
2 家庭教育の充実、地域一体となった子育て支援	B	B	1
基本方針 2 未来を担う子どもたちの学びの環境を充実する（学校等教育）			
3 普代村校長・園長会議	A	A	2
4 普代村副校長会議	A	A	2
5 普代小中学校一貫教育研究会運営委員会	A	A	1
6 普代小中学校一貫教育研究会	A	A	1
7 普代村教務主任会議	A	A	1
8 義務教育学校整備事業	A	A	1
9 普代村生徒指導連絡協議会	A	A	1
10 普代小中学校一貫教育研究会（再掲）	B	B	1
11 普代村幼・小連携教育研修会（再掲）	B	B	3
12 統合型校務支援システムの活用	B	B	1
13 普代村教育支援委員会	B	B	3
14 特別支援教育支援員研修会	A	A	1
15 普代小中学校一貫教育研究会（再掲）	A	A	1
16 A L T の配置	A	A	2
17 児童生徒の学校検診	A	A	2
18 通学バスの運行	A	A	1
19 避難訓練の実施	A	A	1
20 安心安全な学校給食の提供	A	A	2
21 食育活動の推進	A	A	2
基本方針 3 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）			
22 家庭教育力の向上、子どもを育む地域教育力の向上	B	B	2
23 普代村教育振興運動	B	B	4
24 普代村学習塾	A	A	1
25 放課後子ども教室	B	A	2
26 学校と地域の協働推進事業	A	A	2
27 生涯学習社会の推進体制の整備	C	B	3
28 社会教育団体の育成と活動支援	B	B	2
29 図書室の運営	A	A	2
30 地球村ふだいまなび講座	C	C	3
31 多様な生涯スポーツの推進体制の整備	B	A	3
32 体育関連施設の整備	B	A	3
33 スポーツ教室等開催事業	A	A	3
34 多様なスポーツを通じた交流促進	B	A	3
35 文化財の保護と活用	B	A	2
36 鶴鳥神楽の保存と伝承	B	A	2
37 芸術文化活動の促進	B	B	3
38 男女共同参画事業	D	D	3

【自己評価】

- A：概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた
 B：ほぼ目標を達成できたが、改善の余地がある
 C：目標をあまり達成できなかったため、改善を要する
 D：目標を達成できなかった

【今後の方針】

- 1：さらに重点化する
 2：現状のまま継続する
 3：見直しの上、継続する
 4：事業の縮小・休止を検討する
 5：終了・完了

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	1	事業名	普代村幼・小連携教育研修会
教育大綱の 位置付け	基本方針	I 健康な体・豊かな心を育む就学前教育を充実する（就学前教育）	
	主要施策	1 保育・教育内容の充実	
	取組	1-2 幼小中連携強化の促進	
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 子ども園・小学校の連携を図ることにより、生涯にわたって人間形成の基礎を培う乳・幼児期から児童期までの保育・教育に関わる研修を深め、保育士、教員の指導力の向上に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 （１）第１学年の授業参観及び研究協議 （２）年長クラスの保育参観及び講義・協議（県北教育事務所事業「小学校低学年教育研修会」と抱き合わせ開催）		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成 果	子ども園・小学校それぞれの先生方が、相互に授業または保育を参観し合うことで、子どもの発達や学び、成長の様子についての理解を深めることができた。授業後の協議では、指導・支援する際の工夫を交流し、今後生かしていきたい点を共有することができた。また、「架け橋期のカリキュラム」について、新たに育ってほしい子どもの姿について視点を共通理解し、再編成することの必要性を確認できた。		
課 題	国や県で示している「幼児期の教育の充実」と「円滑な幼小接続」の大切さについての理解を、より一層深められるような研修が今後必要である。幼保小架け橋プログラムにおけるカリキュラム開発会議やスタートプログラムの目的や内容を踏まえた上で、一部の教職員だけではなく、園全体・学校全体での共通理解を図った上で取り組めるように働きかけたい。 幼小の連携を充実させるため、幼児教育アドバイザーの配置が求められる。子ども園と小学校をつなぎ、助言する立場の者を配置することで、より一層の充実が図られる。教育委員会単独ではなく、村保健センターや子ども園との密な連携と連絡の上、配置に向け検討していく必要がある。		
評 価	B	【評価理由】 事業の見直しを行った上で、より効率的かつ効果的な事業の展開が期待できるため。	

3 点検評価委員の評価

評 価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。園全体・学校全体での共通理解を図り、より効果的な事業の展開に努めていただきたい。自己評価「B」は妥当である。
-----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方 針	3	【今後の主な取組】 5歳児から小学1年生までの「架け橋期のカリキュラム」の見直しと、小学校入学時の「スタートプログラム」の開発を進めていく。「幼児期の教育の充実」と「円滑な幼小接続」を大切にして、幼小の連携を充実させていく。
-----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	2	事業名	家庭教育の充実、地域一体となった子育て支援
教育大綱の 位置付け	基本方針	1	健康な体・豊かな心を育む就学前教育を充実する
	主要施策	2	家庭や地域の教育力の向上
	取組	1-1	家庭教育の充実 1-2 地域一体となった子育て支援
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 子どもの発達に応じた親への学習機会の提供をするとともに、子育て機関の連携と親子の活動機会を提供する。また、子育て世帯の働きやすい環境づくりを推進する。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○家庭教育セミナー ①「親子 de ふれあい遊び」 講師：フリーランス保育【師】キッズ コーデ イネーショントレーナー 柏木翔吾 氏 @はまゆり子ども園 参加者：20 名 ②「アニメと神楽の密かな関係」 講師：地域づくりアドバイザー 橋本裕之氏 元アニメ制作会社 武藤弥生氏 @普代村役場 参加者：16 名 ○未就園児親子を対象とした一時預かり事業を実施した。 @子育て支援センター 開所日数：295 日 利用実績：延べ 7 名 ○未就園児親子を対象とした交流や相談業務を実施した。 @子育て支援センター、開所日数：295 日 対象児 0 歳児 5 名 / 1 歳児 3 名 / 2 歳児 3 名 計 11 名 利用者数：延べ 41 名 相談件数：4 件		
	【決算額（前年度数値）】 63 千円（22 千円）		

2 自己評価

成 果	家庭教育セミナー事業 KPI である実施回数(2 回)は達成されている。	
課 題	アンケートによる事業の評価検証(子ども園利用満足度)が行うことができなかった。	
評 価	B	【評価理由】 概ね目標を達成することはできたが、事業の評価検証が未実施であった。

3 点検評価委員の評価

評 価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。自己評価「B」は妥当である。
-----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方 針	1	【今後の主な取組】 生涯学習プランでは家庭教育力向上のための調査研究を行い、その結果を次年度事業に反映させる。また、子育て支援センター一時預かりの制度見直しを検討する。
-----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	3	事業名	普代村校長・園長会議
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ 未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）	
	主要施策	3 創造的な子ども園・学校経営の推進	
	取組	3-1 特色ある子供園・学校経営の推進	
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 普代村小・中学校、子ども園教育の今日的課題や学校教育指導事業等について協議を行い、円滑な学校運営を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 （１）教育委員会事業の報告（成果と課題）、村事業等の実施状況報告 （２）月ごとの事業計画・調整 （３）園、小・中学校の経営計画及び実施状況の報告、園児・児童生徒の状況、職員の状況		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	教育委員会事業を実施する際のねらいや成果と課題を、園・学校に理解していただきながら進めることができた。また、園・学校経営に係る必要事項についても共有・確認することができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 計画的に事業を実施できており、ねらいや成果、課題を情報共有および課題解決の協議の場とすることができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 義務教育学校開校まで1年となる中で、園小中で課題について協議・検討していく。また、協議・検討し、確認した事項を園小中職員で共有し、事業の発展につなげる。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	4	事業名	普代村副校長会議
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-1	特色ある子供園・学校経営の推進
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 普代村小・中学校、子ども園教育の今日的課題や学校教育指導事業等について共通理解を図ることにより、校長を中心とした円滑な学校運営に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 （１）学校・子ども園経営上の成果と課題 （２）ＰＴＡを中心とした地域の連携 （３）学校教育事業計画 （４）復興教育、学力向上、生徒指導、幼小連携・小中一貫教育等		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	年度当初の校長・園長会議と抱き合わせで実施している事業であり、上記内容についての共通理解を図ることで、校長を中心とした円滑な学校経営に生かしていただくことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 年度当初において、学校運営および園運営を共有する場とすることができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 年度当初の校長・園長会議時併せて開催し、共通理解を図り、校長のリーダーシップの下、円滑な学校経営を実現する。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	5	事業名	普代小中学校一貫教育研究会運営委員会
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-1	特色ある子供園・学校経営の推進
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 義務教育9年間における継続的・系統的な指導の在り方について、小・中学校教職員の研修並びに研究の交流を協働的に推進し、普代村の児童生徒の心身の成長、望ましい人間関係の構築、学力の保障に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 ・普代村の児童・生徒の学力保障と小中一貫教育の推進 （小中一貫教育に係る経営等についての協議）		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	小中一貫教育の推進に向けて、経営部会で協議・検討した事項を基に、方向性や改善点等をさらに協議し、一貫研の運営に生かすことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 経営部会の協議事項を基に、運営委員と方向性を確認することができ、一貫研の運営を円滑かつ発展的にすることができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 各校運営委員との協議内容を資料として事前に送付して、協議・検討する時間を確保する。協議・検討事項を事前に吸い上げるため、運営委員との連絡を密に取っていく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	6	事業名	普代小中学校一貫教育研究会
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-1	特色ある子ども園・学校経営の推進
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 義務教育9年間における継続的・系統的な指導の在り方について、小・中学校教職員の研修並びに研究の交流を協働的に推進し、普代村の児童生徒の心身の成長、望ましい人間関係の構築、学力の保障に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 （1）全体会議 （2）専門部会 （3）小中合同授業研修会 （4）先進校視察研修		
	【決算額（前年度数値）】 500千円（483千円）		

2 自己評価

成果	全体会議で小中一貫研の目的や活動の方向性を小中学校の先生方と共有し、事業内容を進めることができた。専門部会においては、部長を中心として、各部の活動構想に基づいて活動を進めていただいた。教務部では、総合的な学習の時間の全体計画に着手することができた。研究部では、小中一貫研授業研究会の持ち方について、児童生徒に身に付いた資質・能力を見取り共有するための方法を検討した。指導部では、小中合同取組やスクールフェスタに係る取組を計画・実施し、小中合同運動会実施に向け複数回に渡り協議・検討することができた。小中合同授業研修会では、児童生徒に身に付いた資質・能力を研究協議の視点とし、子どもの本時および単元での学びについて協議することができた。また、先進校視察研修として、小中一貫教育全国サミット in 府中に参加し、府中市における実践や全国の先進的な実践を学ぶことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 一貫教育の目的を共有することができ、行事や授業研究会等小中の異なる視点を持ちながらも、教職員が同一の方向性をもち学ぶことができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	一貫教育の強みが最大限に活かされ、児童生徒の学びや成長につながるよう、9年間で身に付ける資質・能力の系統性をより重視した授業づくりや児童生徒交流の機会確保と質の充実を図りたい。また、義務教育学校開校に向けて、学校経営計画の作成、研究テーマの実態に応じた再設定など見通しを持って準備を進めたい。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	7	事業名	普代村教務主任会議
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-1	特色ある子ども園・学校経営の推進
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 教育課程編成の状況について情報交換を行うとともに、教務主任の日常的な実践について研修し、その職責の遂行を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 （１）本年度の教育課程編成上の成果と課題 （２）次年度の教育課程編成の計画について （３）次年度の事業計画について		
	【決算額（前年度数値）】 0 千円（0 千円）		

2 自己評価

成果	子ども園・小中学校の教育課程編成・実施上の成果と課題について共有するとともに、次年度の年間計画について、園・各学校間で調整を図ることができた。また、小中学校については、次年度の教育課程編成に係る必要事項を確認することができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 教育課程を編成・実施上の成果と課題を明らかにすることができた。時数削減等も図られた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	教育課程編成に係る授業時数と行事時数を調整・削減する必要がある。準備や練習時間の時数確保と、行事当日の出来栄のバランスをとるように。所属長等も交え協議していく。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	8	事業名	義務教育学校整備事業
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子どもたちの学びの環境を充実する
	主要施策	3	創造的な子ども園、学校経営の推進
	取組	3-2	明るく活力ある教育環境の構築
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 義務教育9年間を通じた系統的で一貫性のある教育活動を通して、児童生徒の発達段階に応じた学習指導や生活指導を行い、本村の子どもたちの個性や能力をより伸ばすことができる環境を整備するため、義務教育学校（小中一貫教育学校）の建設を行う。		
	【取組状況（前年度数値）】 ・基本計画策定及び基本設計（R5.5～R5.9） ・実施設計 R5.12～R6.10 ・建設予定地解体整地工事 R6.10～R7.3		
	【決算額（前年度数値）】 167,263千円（79,280千円）		

2 自己評価

成果	令和6年度に予定していた事業については、小・中学校や設計業者、庁内検討組織などとの適時の協議・調整を行い、施設整備スケジュール通りに事業を進めることができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 計画通りの進捗であり、目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 小・中学校や設計業者、施工業者、庁内検討組織などとの連携をより一層強化し、円滑な業務遂行に取り組み、施設整備スケジュールに沿った事業の進捗を図る。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	9	事業名	普代村生徒指導連絡協議会
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-2	明るく活力ある教育環境の構築
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 普代村の児童生徒の健全育成を目標に、村内各小中学校、村外高校、関係機関及び地域社会との連携を取り、生徒指導を全体的・総合的に推進し、その充実強化を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 小・中・高の生徒指導の推進とその連携及び健全育成のための情報交換及び協議を行う。		
	【決算額（前年度数値）】 100千円（100千円）		

2 自己評価

成	果	各校における生徒指導の問題や対応の在り方について、情報共有を図ることができた。また、村外高校や関係機関からも情報提供をいただき、本村及び久慈地域内の児童生徒の実態や生徒指導の実際について共通理解を図ることができた。 環境面については、補助金を活用し、新入学児童用のクマ鈴やスクールガードパトロール用ステッカーなどの必要物品を購入し、通学時の安全対策と見守り体制の整備に努めた。
課	題	特記事項なし
評	価	【評価理由】 事業計画通りに実施できているが、昨今の生徒指導事案を鑑み、不適応対策や人権教育も交えて、協議委員の深い理解を促すことも必要である。

3 点検評価委員の評価

評	価	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
---	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方	針	【今後の主な取組】 スクールガード事業への支援方法を検討したい。（R6年度はスクールガードステッカーを購入したが、物品購入以外の支援方法があればよい。） また、生徒指導の充実に向けた研修会があってもよいのではないかと考える。例えば、不登校対策やいじめへの組織的な対応、発達支持的な生徒指導などについて、普代村の児童生徒の状況を把握し、実施することも必要である。
---	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	10	事業名	普代小中学校一貫教育研究会（再掲）
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	3	創造的な子ども園・学校経営の推進
	取組	3-3	思いやりの心を育てる教育指導の充実
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 義務教育 9 年間における継続的・系統的な指導の在り方について、小・中学校教職員の研修並びに研究の交流を協働的に推進し、普代村の児童生徒の心身の成長、望ましい人間関係の構築、学力の保障に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 ・ 学校生活における児童生徒の対人関係能力や満足度を把握するためのアンケート調査（hyper-QU）の実施 ・ 総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し		
	【決算額（前年度数値）】 63 千円（130 千円）		

2 自己評価

成果	小中学校において、年二回、hyper-QUを実施し、児童生徒理解や学級づくりに役立てていただいている。 また、総合的な学習の時間のカリキュラムについて、継続的・系統的な指導の観点から見直しを行い、他教科との関わりも踏まえて重点項目等を確認することができた。		
課題	hyper-QUを実施した後、各学校内でどの程度活用されているのかを確認し、必要であれば有効活用のための研修等を実施していただけるよう働きかける。 また、総合的な学習の時間のカリキュラムについて、全体計画を見直したが、各学年の発達段階における指導内容や他教科とのかかわりを吟味し、子どもに身に付けたい資質・能力を明らかにするよう働きかける。		
評価	B	【評価理由】 事業計画通り実施できたが、一貫教育の発展の上で、児童生徒理解や情報共有の場面を設け、子どもの居場所である学級経営の醸成を促す必要がある。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。hyper-QU 実施後の活用については、各学校と協議・調整の上、事業効果の発現に取り組んでいただきたい。自己評価「B」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 hyper-QU を年 2 回取り組み、対人間関係等の把握を行う。アンケート調査を十分に生かすため、結果の読み取りや今後の活かし方を学ぶ研修等を開催し、充実を図りたい。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	11	事業名	普代村幼・小連携教育研修会（再掲）
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育
	主要施策	4	保育士・教職員の資質の向上
	取組	4-1	幼小中連携の促進 4-2 指導力・授業力の向上
事業目的及び取組状況	【事業目的】 子ども園・小学校の連携を図ることにより、生涯にわたって人間形成の基礎を培う乳・幼児期から児童期までの保育・教育に関わる研修を深め、保育士、教員の指導力の向上に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 (1) 第1学年の授業参観及び研究協議 (2) 年長クラスの保育参観及び講義・協議		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	子ども園・小学校それぞれの先生方が、相互に授業または保育を参観し合うことで、子どもの発達や学び、成長の様子についての理解を深めることができた。 授業後の協議では、指導・支援する際の工夫を交流し、今後生かしていきたい点を共有することができた。また、「架け橋期のカリキュラム」について、現在あるものを見直し、再編成することの必要性を確認できた。		
課題	国や県で示している「幼児期の教育の充実」と「円滑な幼小接続」の大切さについての理解を、より一層深められるような研修が今後必要である。一部の教職員だけではなく、園全体・学校全体での共通理解を図った上で取り組めるように働きかけたい。 また、本研修会と架け橋期カリキュラム開発会議の事業目的が同じであることや、カリキュラムを改善していく必要があることを踏まえ、研修会と開発会議を同日に設け、子どもの様子を参観した上で、研修及びカリキュラムの検討・改善を図っていく。		
評価	B	【評価理由】 事業の見直しを行った上で、より効率的かつ効果的な事業の展開が期待できるため。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。幼小連携の理解をより一層深めるため、園と学校との共通理解と研修内容の充実に取り組んでいただきたい。自己評価「B」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 園・小の授業参観を行って現状把握に努め、互いのよさを知って園児・児童の指導を見直し生かしていく。「架け橋期のカリキュラム」の見直しと、「スタートプログラム」の開発を進める。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	12	事業名	統合型校務支援システムの活用
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する
	主要施策	4	保育士・教職員の資質の向上
	取組	4-2	指導力・授業力の向上
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 児童生徒の学力や日常的な行動、心身の健康状態などの多様な情報を校内での一元管理・共有・発信・受信することにより、データ分析等により指導改善等に役立て、教育の質的な向上を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 小中学校どちらも毎月校務支援システムへ児童生徒の出席簿及び健康観察等の情報を入力しているが、同システムのクラウド運用によるグループウェアの活用状況については、小学校において活用が限定的であり、十分に浸透していない状況である。		
	【決算額（前年度数値）】 806千円（0千円）		

2 自己評価

成果	煩雑な校務を効率化し、教職員が生徒と向き合う時間を増やすことを目的とし令和6年度から本格運用を開始した。		
課題	教職員間で IT スキルに差があるため、一部の教職員は十分に活用できている一方、他の教職員は活用に苦労している状況である。県の教職員向けの IT スキル研修等を活用しつつ、運用方法や活用事例の共有を通じて、システムの利用拡大を図っていく必要がある。 また、グローバル IP アドレスのアクセス制限を設けたため、ロケーションフリーを可能とする運用について検討する。		
評価	B	【評価理由】 導入年度ということもあり、日々の業務において手間取っている様子であった。しかし、研修等重ねる中で操作スキルも向上し、一定の活用が見られるようになった。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。教職員間の IT スキルの差を埋め、システム活用の最大化による指導改善と働き方改革の推進に取り組んでいただきたい。自己評価「B」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 教職員の IT スキルの向上とシステムの活用促進を図るため、県の教職員向けの IT スキルアップ研修等を行う。また、ゼロトラスト環境（2段階認証等）の整備に加え、ロケーションフリーによる業務の効率化・働き方改革を調査・研究していく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	13	事業名	普代村教育支援委員会
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	5	特別支援教育の推進
	取組	5-1	特別に支援が必要な幼児・児童・生徒への適切な支援
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 村内の小・中学校の児童生徒及び就学児にとっての適切な学びの場を検討し、特別教育支援の推進を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 （1）支援を要する児童生徒の状況と支援の在り方について （2）在学児童生徒及び就学時の適切な学びの場と支援の在り方について （3）個別の教育支援計画の確認		
	【決算額（前年度数値）】 31千円（67千円）		

2 自己評価

成果	支援を要する児童生徒の状況や支援の在り方について、園・学校と情報を共有することができた。また、学びの場の検討に関わっては、就学時健診や個別検査の結果に基づいて支援案を提案することができた。 個別の教育支援計画については、作成に係る留意点等を確認し、園・各学校で保護者との連携を図りながら作成していただいていた。		
課題	調査員の確保が難しい。村内で人材育成を図ることができれば理想的であるが、場合によっては外部へ委託する等、持続可能な方法を検討する必要がある。 教育支援案を出した後の学校や保護者への通知の仕方について、確認・整理する必要がある。また、文書や資料等の文言が一部、現在の特別支援教育の考え方に合っていないものがあるので、修正をしていく必要がある。 支援委員会にて教育的措置案が承認された後に転入してきた児童に対して、臨時支援委員会等を開催し、協議する時間を設ける必要があった。今後もこのような状況が考えられるため、支援委員会の柔軟な開催を検討する必要がある。		
評価	B	【評価理由】 子どもの現状を把握した上で、支援を必要とする児童生徒に対する支援委員会の弾力的開催が必要である。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。昨年度と同様に人材確保（調査員）が課題となっている。村内の人材育成や外部人材の確保など、持続可能な支援の体制整備に取り組んでいただきたい。自己評価「B」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 保健センターと連携した年中園児からの調査を実施し、早期段階から外部機関の力を借りて調査を行う。支援委員会規則の見直しを行い、柔軟に児童生徒の学びの場の検討ができるように整備していく。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	14	事業名	特別支援教育支援員研修会
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	5	特別支援教育の推進
	取組	5-2	特別支援教育の充実
事業目的及び取組状況	【事業目的】 特別支援教育支援員の職員に対して、より具体的な支援方法等を研修する機会を提供することで、資質向上を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 （1）特別支援学級等の授業参観 （2）各種障がいについての基礎的な知識 （3）場面に応じた具体的な支援の方法		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	特別支援教育エリアコーディネーターによる講義を通して、支援の在り方や全体への配慮、担任との連携などについて具体的に学ぶことができた。また、拓陽支援学校の先生方から、支援員一人一人の抱える課題についてのご助言いただくことができた。 野田村との合同開催で、他市町村の支援員が意見を交流し、支援の仕方などを交流することができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 課題はあるが、計画通り実施できたことと、支援員の支援のあり方を協議・検討することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 支援の在り方については支援員だけでなく、小中学校教職員にも聞いていただき、学校全体で理解を深めていきたい。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	15	事業名	普代小中学校一貫教育研究会（再掲）
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-1 育ちあう子どもの育成 6-2 助けあう子どもの育成 6-3 認めあう子どもの育成	
事業目的及び取組状況	【事業目的】 義務教育 9 年間における継続的・系統的な指導の在り方について、小・中学校教職員の研修並びに研究の交流を協働的に推進し、普代村の児童生徒の心身の成長、望ましい人間関係の構築、学力の保障に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 （1）普代村の児童生徒の学力保障と小中一貫教育の推進 （2）道徳教育の充実に向けた支援 （3）キャリア教育の推進		
	【決算額（前年度数値）】 500 千円（483 千円）		

2 自己評価

成果	全体会議で小中一貫研の目的や活動の方向性を小中学校の先生方と共有し、事業内容を進めることができた。専門部会においては、部長を中心として、各部の活動構想に基づいて活動を進めていただいた。教務部では、総合的な学習の時間の全体計画に着手することができた。研究部では、小中一貫研授業研究会の持ち方について、児童生徒に身に付いた資質・能力を見取り共有するための方法を検討した。指導部では、小中合同取組やスクールフェスタに係る取組を計画・実施し、小中合同運動会実施に向け複数回に渡り協議・検討することができた。小中合同授業研修会では、児童生徒に身に付いた資質・能力を研究協議の視点とし、子どもの本時および単元での学びについて協議することができた。また、先進校視察研修として、小中一貫教育全国サミット in 府中に参加し、府中市における実践や全国の先進的な実践を学ぶことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 一貫教育の目的を共有することができ、行事や授業研究会等小中の異なる視点を持ちながらも、教職員が同一の方向性をもち学ぶことができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 一貫教育の強みが最大限に活かされ、児童生徒の学びや成長につながるよう、9 年間で身に付ける資質・能力の系統性をより重視した授業づくりや児童生徒交流の機会確保と質の充実を図りたい。また、義務教育学校開校に向けて、学校経営計画の作成、研究テーマの実態に応じた再設定など見通しを持って準備を進めたい。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	16	事業名	A L T の配置
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ 未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）	
	主要施策	6 児童生徒の健全な育成	
	取組	6-1 育ちあう子どもの育成	
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 外国語活動及び英語科授業の充実により、国際理解教育の推進を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 子ども園、小・中学校へのA L T 配置 ・配置人数 1人 ・期 間 令和6年4月から令和7年3月までの1年間 ・勤務時間 週35時間 ・勤務日数 年間約200日		
	【決算額（前年度数値）】 5,478千円（5,478千円）		

2 自己評価

成 果	園・各学校でA L T と連携した活動や授業が展開され、異文化への理解を深めることができた。		
課 題	特記事項なし		
評 価	A	【評価理由】 事業目的の達成のため、園・小中学校でA L T を活用できた。	

3 点検評価委員の評価

評 価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
-----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方 針	2	【今後の主な取組】 A L T と連携した活動や授業を展開していく。他国との異文化交流や理解を進めるために、その方法を模索するとともに、園児・児童生徒に目的をもたせていく。
-----	---	---

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	17	事業名	児童生徒の学校検診
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-1	育ちあう子どもの育成
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 児童生徒の健康状態を定期的にチェックすることで健康問題の早期発見、健康に対する意識の向上を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 学校医や岩手医科大学、おのでら耳鼻咽喉科クリニック、予防医学協会に委託し、内科検診等全9種類の検診を実施し、児童生徒の健康状態の把握を行う。また、教職員検診についても予防医学協会と連携をしながら健康の保持増進を図る。		
	【決算額（前年度数値）】 584千円（603千円）		

2 自己評価

成果	前年度（R5）から検診日程の調整を行い、契約締結まで滞りなく行うことができた。耳鼻科検診、眼科検診については、久慈市や盛岡市から医師を派遣いただき、看護師等との事前打ち合わせを行い、当日の流れや送迎などについて確認することができた。また、検診当日についてもトラブルなく終わることができた。 教職員検診についても事前の資料の送付、会場の確保、他市町村の教職員の受け入れについてスムーズに行うことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 事前調整等を行い計画的に検診を進めることができ、また、全ての健診においてトラブルなく終わることができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 今後は小中学校合同での検診が増えることから、検診時の導線や係員等の動き方等について、小中養護教諭と打合せを行うこととしたい。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	18	事業名	通学バスの運行
教育大綱の 位置付け	基本方針	II	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-2	助け合う子どもの育成
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 登下校時の事故を防ぎ、子どもたちの安全を確保する。また、スクールバスの定期的な点検・整備を行い、安全管理の徹底を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 村内業者（託栄商会、普代タクシー）に委託し、黒崎・太田名部方面、白井・堀内方面、力持・鳥居・茂市・萩牛方面に計4台のスクールバスを運行し、遠距離通学条件の緩和を図る。 また、計画的なバスの更新（R5）及び除却（R6）を行い、児童生徒の安心・安全な登下校の実施を図る。		
	【決算額（前年度数値）】 10,977千円（20,930千円※内スクールバス整備事業 9,712千円）		

2 自己評価

成果	スクールバス利用時において児童生徒の問題行動が複数回報告されたことから、担当者が学校に赴き、乗降時のマナーや車内での行動など注意点について説明を行った。その後、同様の事案は報告されていない。 また、通学路付近においてクマの目撃情報等あった場合は乗降場所を変更するなど、児童生徒の安全を最優先に考えたスクールバスの運行に努めることができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 スクールバスの運行に支障が生じないよう計画的に車検・整備を実施することができ、安心安全な運行管理に努めることができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 令和9年度開校予定となる普代村立普代学園の通学バス運行計画を策定する。（開校時の地区別児童生徒数、路線及び車両台数等）
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	19	事業名	避難訓練の実施
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-2	助け合う子どもの育成
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 校内での地震や津波災害時の避難方法を知るとともに、集団行動能力を高めることを目的とする。また、緊急時の対応について共通理解を図るとともに、問題点を洗い出し、今後の対応の参考とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 4月…小中合同避難訓練 ・津波を想定した訓練で、中学校裏から三陸沿岸道路脇広場へ避難。 9月…普代村防災避難訓練 ・中学生は登校前を想定し、難場所である役場集合。その後避難所設営訓練を実施。 ・小学生は登校済みを想定し、スクールバスで役場へ避難。避難所設営訓練等を見学し、訓練終了後、保護者へ直接引き渡す実動訓練を実施。		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	児童生徒の避難経路・集合場所の確認はもちろんのこと、登下校時の避難や教職員の対応についても共通確認することができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 年間計画に基づき実施し、目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。令和7年7月30日に発生した遠地地震津波を想定した避難行動マニュアルを作成し、児童生徒等の安全確保を適切に行うよう努めていただきたい。自己評価「A」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 遠地地震津波を想定した避難行動マニュアルを作成し、児童生徒等の安全確保を適切に行う。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	20	事業名	安心安全な学校給食の提供
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-3	認め合う子どもの育成
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 児童生徒の適切な栄養摂取による健康の保持増進を図るとともに、経済的な困難から子どもの健康や学習機会が損なわれないよう、給食費の無償化を実施する。		
	【取組状況（前年度数値）】 バランスのとれた献立作成とおいしい給食を提供することにより、児童生徒の健康な体づくりを目指す。また、衛生管理の行き届いた安心安全な給食を提供する。また、衛生管理の行き届いた安心安全な給食を提供する。		
	【決算額（前年度数値）】 37,999千円（38,952千円）		

2 自己評価

成果	基準を概ね満たした給食を提供することができた。また、教科等の学習内容に関連した給食を提供し、学校教育との連携を深めることができた。 ・ 普代小 187 日（児童 13,107 食、無償化に要する事業費 3,801,030 円） ・ 普代中 185 日（生徒 7,393 食、無償化に要する事業費 2,365,760 円）		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 計画通りの事業実績であり、目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 より一層学校と連携を図りながら、地産地消の推進、伝統食文化の普及及び学校教育との関わりなど、食への興味関心を高める学校給食の提供に取り組む。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	21	事業名	食育活動の推進
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅱ	未来を担う子ども達の学びの環境を充実する（学校等教育）
	主要施策	6	児童生徒の健全な育成
	取組	6-3	認め合う子どもの育成
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 食事について、正しい理解や食への興味関心を深め、健全な食生活を実践できる児童生徒の育成を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 担任、養護教諭等と連携したチームティーチング（T.T）による食育授業を行う。 「チームティーチング」とは、複数の教師が協力して授業を行う教育方法です。通常、1人の教師が授業をリードし、他の教師がサポートや個別指導を行うことで、よりきめ細やかな指導を実現することを目指します。		
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）		

2 自己評価

成果	小・中学校全てのクラスで担任と事前打ち合わせを行い、連携してチームティーチング（T.T）による食に関する授業を行うことができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 計画通りの事業実績であり、目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 特別活動だけでなく、教科での食に関する指導や肥満傾向の児童生徒に対して個別指導等を行うとともに、児童生徒にとって更に効果的な指導となるよう栄養教諭と担任教諭が連携した食に関する指導（T.T）・授業の充実を図っていく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	22	事業名	家庭教育力の向上、子どもを育む地域教育力の向上
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	7	社会教育と学校教育の連携推進
	取組	7-1 家庭教育力の向上 7-2 子どもを育む地域教育力の向上	
事業目的及び取組状況	【事業目的】 保護者等が家庭で直接子どもに還元できるスキルを身に付けることで家庭教育を充実させるための講演会や、矢巾町児童との交流、地域の伝統文化へのふれあいを通じて家庭における教育力の向上を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○家庭教育セミナー（再掲：事業番号2） ○矢巾町・普代村の児童相互交流 特産ズッキーニ入りカレー作り、防災体験 @矢巾町営キャンプ場、岩手県立防災センター 参加者：普代村小学生10名、矢巾町小学生20名 矢巾教委10名、普代教委4名、岩手県防災センター5名 ○子ども神楽の実施 鶴鳥神楽保存会協力 @普代小 内 容：神楽宿の準備（しとぎ作り、幕張り）、神楽宿・演目の説明、演目披露（清祓、恵比須舞）、直会（給食） 参加者：普代小4年生12名、保護者1名、教職員7名、教委3名		
	【決算額（前年度数値）】 41千円（207千円）		

2 自己評価

成 果	家庭教育セミナー事業はKPIの実施回数（2回）を達成することができた。 また、矢巾町と普代村の児童相互交流や子ども神楽の実施については、地域資源を活用した体験活動を計画通りに実施することができた。		
課 題	生涯学習プランでは家庭教育力向上のための調査研究を行い、その結果を次年度以降の事業に反映させることとなっているが、矢巾町交流事業の参加者が少ないことや実施時期、また、子ども神楽宿への保護者参加が少ないことなどの課題に対する具体的対応がなされていない状況であった。		
評 価	B	【評価理由】 概ね目標は達成できたが、今後はPDCAサイクルを適切に活用し、より効果的な事業展開と課題改善を図る。	

3 点検評価委員の評価

評 価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。自己評価「B」は妥当である。
-----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方 針	2	【今後の主な取組】 家庭教育力向上に向けた調査研究を行うとともに、各事業の参加者確保策については、実施時期の調整や早めの情報発信、ターゲットの明確化、参加メリットの提示等具体的対応を行いながら改善を図ることとしたい。
-----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	23	事業名	普代村教育振興運動
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	7	社会教育と学校教育の連携推進
	取組	7-2	子どもを育む地域教育力の向上
事業目的及び取組状況	【事業目的】 普代村教育振興運動推進体制の充実と各実践班組織の強化により、より効果的な活動の展開を図り、「各地区での子育て」から「村全体での子育て」へと発展させることを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○教育振興運動推進委員会議の開催 計2回 第1回 令和5年度活動報告及び令和6年度活動計画案 第2回 推進大会の開催及び表彰 ○教育振興運動実践班リーダー研修会 計2回 第1回 講師：県北教育事務所 社会教育主事 横澤詩織氏 内容：①研修会「情報メディアとの上手な付き合い方」 ②実践班ごとの協議「5か年プランを振り返る」 第2回 講師：県北青少年の家 所長 片野正喜氏 内容：①研修会 ～子どもを育てる体験活動～宵活のススメ ②班ごとのグループワーク ○教育振興運動推進大会 参加者：約70名 ・教育推進委員会表彰（12名、4団体） ・映画上映「ゆめパのじかん」1回目9：30～ 2回目13：00～ ・助言者：県北教育事務所 社会教育主事 横澤詩織氏		
	【決算額（前年度数値）】 100千円（100千円）		

2 自己評価

成果	子どもと保護者が一緒に協議できる貴重な場であり、生活と学びについて向き合うことができた。これまでの全県課題の5ヶ年の取組を振り返り、改めて取り組みの成果、今後の活動への参考となった。		
課題	2024年度から「家庭学習の充実」「体験活動の充実」に取り組んでいくが、「メディアとの付き合い方」も踏まえながら取り組むことが必要である。また、地区の活動に頼ったものから、さらに実のある取組とすることが重要である。		
評価	B	【評価理由】 概ね目標は達成できたが、今後はPDCAサイクルを適切に活用し、より効果的な事業展開と課題改善を図る。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。運動の在り方や取り組み内容に工夫が必要と思われる。自己評価「B」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	4	【今後の主な取組】 これまでの教振運動を踏まえつつ、枠組みを解消し、学校運営協議会や地域学校協働活動を中心に、新たな教育振興運動の形として形成していく。
----	---	---

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	24	事業名	普代村学習塾
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅲ 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）	
	主要施策	7 社会教育と学校教育の連携推進	
	取組	7-2 子ども達を育む地域教育力の向上	
事業目的及び取組状況	【事業目的】 児童生徒の基礎学力の定着及び高校入試対策に資する。		
	【取組状況（前年度数値）】 学習塾運営会社(KATEKYO 学院)から講師を招聘し、村内小・中学生を対象に村営学習塾を開設する。 開設期間は7月から翌年3月までとし、開催計画は次のとおりである。 ・小学1～2年生 全8回（8月・1月） ・小学3～4年生、5～6年生 各20回（7月～1月） ・中学1、2年生 各25回（9月～2月） ・中学3年生 全50回（7月～2月）		
	【決算額（前年度数値）】 1,550千円（1,308千円）		

2 自己評価

成果	令和6年度から小学1・2年生を対象とし、小・中学校の全児童生徒を学習塾の対象とした。各学年別の受講者は次のとおりである。 ・小学生 9名 1年生：1名（8%）、2年生：5名（41%）、3年生：0名（0%） 4年生：2名（14%）、5年生：1名（5%）、6年生：0名（0%） ・中学生 14名 1年生：4名（33%）、2年生：1名（8%）、3年生：9名（50%） ※（ ）内は学年ごと人数に対する塾参加者の割合		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 概ね目標を達成することができた。小学1・2年生を受講対象としたことで前年度より受講者を増やすことができた。（小学生4名増、中学生7名増）	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	1	【今後の主な取組】 小学生で受講者がいない学年があり、また、途中から塾に来なくなる子がいるため、継続的受講への呼びかけ、対応策について検討する。（ポイントカード制の導入など）
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	25	事業名	放課後子ども教室
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	7	社会教育と学校教育の連携推進
	取組	7-2	子どもを育む地域教育力の向上
事業目的及び取組状況	【事業目的】 共働き世帯が増加し、放課後に家庭で子どもをみることが困難となってきたおり、子どもたちの放課後の居場所が必要となっている。子どもたちの放課後の居場所を提供するとともに、働いている保護者への支援の充実を目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 放課後子ども教室の登録児童生徒は 42 人、うち 1 日に 20 人前後の利用者があり、土曜日利用や午後 7 時までの延長利用も実施し、子どもたちの放課後の居場所づくりと、多くの働いている保護者への支援の充実を図る。		
	【決算額（前年度数値）】 4, 297 千円（3, 583 千円）		

2 自己評価

成果	放課後や週末、長期休暇等に地域の方々を指導者とし、安心してスポーツや文化活動ができる居場所を子どもたちに提供することができた。盆踊り太鼓教室や文化祭への参加等で、地域の文化に触れながら、地域の方々と交流することもでき、働いている保護者を支援することができた。 また、これまで課題であったスタッフ人材も確保でき、資質向上を目的とした研修会にも参加することができた。		
課題	今後更にスタッフの研修の場（機会）を充実させ、子どもとの関わり方や指導者としての資質・意識レベルの向上を図ることが必要と思われる。		
評価	B	【評価理由】 子どもたちの放課後の居場所づくりや働いている保護者への支援など、概ね目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。昨年度の課題（人材不足）も解消され、保護者への支援の充実が図られている。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 現状を維持しながら、利用者の居場所づくりのみならず、安全安心して利用できる環境づくりやスタッフの見守り体制や資質向上に努める。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	26	事業名	学校と地域の協働推進事業
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	7	社会教育と学校教育の連携推進
	取組	7-2	子どもを育む地域教育力の向上
事業目的及び取組状況	【事業目的】 複雑化・多様化する学校の課題や子どもたちを取り巻く環境に対応するため、学校と地域の連携・協働がますます重要になっている。地域全体で学校教育を支援する体制を構築するとともに、岩手県独自の住民運動である教育振興運動と連動し、実践組織の強化と活動の活性化を図り、更なる学校と地域との連携・協働の推進を目指す。		
	【取組状況（前年度数値）】 地域全体で学校教育を支援し、学校と地域とをつなぐ役割として、地域コーディネーター1名を学校に配置する。		
	【決算額（前年度数値）】 1,083千円（1,155千円）		

2 自己評価

成果	令和6年度における地域コーディネーターの学校配置は1名で、ボランティア実績は普代小・中学校合わせて延べ286人、14企業であった。 地域の方々の支援により、学校における様々な課題を解消・軽減することができ、また、学校と地域が連携・協働することで、子どもたちは地域の方々と触れ合い、地域の方々はボランティア活動を通して学校の活動について知ることができるなど、子どもたちの学びと育ちを地域全体で支える体制の充実を図ることができた。		
課題	特記事項なし		
評価	A	【評価理由】 ボランティア実績の増減（個人△76人減、企業1社増）はあったものの、概ね目標を達成することができた。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 学校での学習や課外活動における学校のニーズと地域資源との連携を図り、学校を核とした地域づくりの推進を継続していく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	27	事業名	生涯学習社会の推進体制の整備
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	8	生きがいくりと多様な学習活動の振興
	取組	8-1	生涯学習社会の推進体制の整備
事業目的及び取組状況	【事業目的】 事業の構築及び職員の資質向上を図りながら、第三者評価機関による評価や提言をもとに生涯学習、社会教育事業の改善・充実を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○社会教育委員会議の開催 出席者：委員5名、事務局 4名 内容：令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画 ○久慈地方社会教育推進協理事会 内容：令和5年度事業実績・決算報告及び令和6年度事業計画・予算案並びに表彰審査 ○久慈地方社会教育推進協总会・研修会 内容：研修会、功労者表彰 講師：生涯学習センター 事務局長 佐々木勉氏 ○生涯学習推進会議 実施なし		
	【決算額（前年度数値）】 60千円（36千円）		

2 自己評価

成果	社会教育事業全般について、委員の方々から事業の取組状況等について審議いただき、事業の評価と今後の方向性などを共有することができた。		
課題	社会教育委員と生涯学習推進会議委員が重なっており、協議内容も重複するところが多い。社会教育委員の拡充、生涯学習推進会議の併催、社会体育も含めた会議の在り方についての検討が必要と思われる。		
評価	C	【評価理由】 生涯学習推進会議が未開催となり、生涯学習プランの推進状況を評価検証していない。目標は未達であり、改善を要する内容であった。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。生涯学習推進会議は未開催であったが、社会教育委員会議を開催し、社会教育事業全般の評価と方向性を共有している。自己評価は「C」であるが、委員評価は「B」とする。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 社会教育委員会議と生涯学習推進会議を兼ねて開催し、社会教育事業の充実と生涯学習プランの進捗評価を併せて実施することで、必要な役割を維持しつつ、会議機能の最適化を図る。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	28	事業名	社会教育団体の育成と活動支援
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅲ	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	8	生きがいつくりと多様な学習活動の振興
	取組	8-2	社会教育団体の育成と活動支援
事業目的及び取組状況	【事業目的】 社会教育団体の自主的な活動を支援し、社会教育活動、文化活動の活発化を促し、地域コミュニティの醸成に寄与することを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○芸術文化団体活動支援事業補助金交付 てばかい合唱団 50,000 円 ふだい荒磯太鼓の会 50,000 円 ふだい盆踊り保存会 50,000 円 ふだい音頭の会 50,000 円 ○村芸術文化団体等活動支援助成金（上限 200 千円） ※令和6年度申請なし ○生涯スポーツ団体育成補助金交付 普代オーシャンズ 100,000 円 チアダンスサークル 100,000 円		
	【決算額（前年度数値）】 400千円（250千円）		

2 自己評価

成果	活動支援事業の実施により、各団体の特色を生かした活発な活動につながった。	
課題	芸術文化団体等活動支援助成金が近年活用されていない状況である。助成金の在り方について改善の必要がある。（令和7年度対応済） 団体の高齢化や会員数の減少等により、活動が停滞している団体もあることから、財政的支援にとどまらず、活動機会の創出にも取り組む必要がある。	
評価	B	【評価理由】 概ね目標を達成することはできたが、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足により各団体の活動が縮小している。多くの村民が積極的に活動する機運を高める取り組みが必要である。

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。自己評価「B」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 担い手不足の解消は、難題ではあるが、村民が文化芸術活動に触れる機会の創出と積極的な活動への支援を継続していく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号		29	事業名	図書室の運営
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅲ 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）		
	主要施策	8 生きがいづくりと多様な学習活動の振興		
	取組	8-3 生涯学習推進体制の整備		
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 普代村に住む乳児から大人までの読書習慣を促進するため、図書室情報の積極的な提供、移動図書館車を利用した読書の拡充を図る。			
	【取組状況（前年度数値）】 「図書室だより」や「広報ふだい」への本の紹介など、新着本の情報を村民に提供するとともに、ブックスタート事業（1.6 歳児健診）のアンケートで読み聞かせ率の向上を図る。 移動図書では各地区等を巡回し、図書室に来ることが難しい地区の方や高齢者の方々に本の貸出を行うとともに、常設図書（村内 10 施設）を開設し、読書推進の環境づくりに努める。			
	【決算額（前年度数値）】 4, 286 千円（6, 389 千円※内耐震業務委託料 1,628 千円）			

2 自己評価

成果	「図書室だより」を年7回、「広報ふだい」への本の紹介を年12回行い、新着本の情報を村民に提供することができた。また、ブックスタート事業（1.6歳児健診）のアンケートでは読み聞かせ率90%を達成することができた。 移動図書では各地区等を定期的に巡回し、図書室に来ること難しい地区の方や高齢者の方々に本の貸出を行うことができた。（利用人数375人、貸出冊数1,168冊） 常設図書は村内の10施設に開設し貸し出しを行うとともに、令和6年12月からは宅配サービスを試験的に実施することができた。（利用人数26人、貸出冊数72冊）		
課題	移動図書や本の宅配サービスの利用者が aumentando ことから、引き続き、高齢者や読書に困難を抱える方々（弱者）の読書推進に注力していきたい。 リサイクル工作は対象を子どもから一般までとし、参加人数を確保・拡大を図ることとしたい。		
評価	A	【評価理由】 例年行っている事業に加え、新たなサービス（宅配）を実施するなど、利用者数、貸出冊数が前年度を上回った。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価「A」は妥当である。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 事業は現状のまま継続し、村議会で図書室移転が議題に上がった事を踏まえて除籍に力をいれたい。
----	---	---

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	30	事業名	地球村ふだいまなび講座
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	8	生きがいくつりと多様な学習活動の振興
	取組	8-3	多様な学習機会の提供
事業目的及び取組状況	【事業目的】 体験学習や各種講座等、村民の学びを継続的に深め、各々の活動へ取り入れることで、よりよい村づくりへとつなげることを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○地球村ふだいまなび講座 次年度（R7）実施予定の「普代の方言」継承事業への導入として、方言について学ぶ機会とした。 演題：「いわての昔話と方言のおはなし」 講師：盛岡短大幼児教育科 助教授 丸山ちはや氏 参加者：約 35 名		
	【決算額（前年度数値）】 30 千円（24 千円）		

2 自己評価

成果	次年度につながる内容となったことや、方言を残しましょうとする教育委員会の姿勢が見える取り組みであった。また、講師先生とつながることができ、方言について引き続き協力をいただくこととしている。		
課題	近年においては、年に 1 度、年度末での実施となっており、「多様な学習機会の提供」とは言えない取組であった。		
評価	C	【評価理由】 教育大綱や生涯学習プランの目指す姿に到達しているとは言えず、KPI（重要業績評価指標）の半分以下の実績であった。	

3 点検評価委員の評価

評価	C	【委員意見】 KPI（重要業績評価指標）が未達成となっている。多くの村民に継続した学習機会が提供されるよう十分な検討が必要である。自己評価「C」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 まなび講座のシリーズ化や単位制など、参加したくなるような多様な学ぶ機会の提供について検討していくこととしたい。
----	---	---

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	31	事業名	多様な生涯スポーツの推進体制の整備
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	9	多様な健康づくりとスポーツの振興
	取組	9-1	多様な生涯スポーツの推進体制の整備
事業目的及び取組状況	【事業目的】 生涯スポーツの推進体制を整え、多様なスポーツ活動の機会を提供し、健康の保持増進を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○生涯スポーツ団体に対する補助金の交付 ・スポーツ少年団等 2 団体に対して補助金を交付 200,000 円 ○スポーツ推進委員の自主事業や B&G 財団事業の実施 ・7/29 B&G 財団事業「水辺の安全教室」（小学生～一般 14 名参加） ・11/16 スポーツ推進委員自主事業（幼児・小学生 15 名参加） ・12/7 久慈地区スポーツ推進委員スポーツ交流会（委員 4 名参加） ・1/26 B&G 財団事業「郷土教育学習」（小学生～一般 10 名参加）		
	【決算額（前年度数値）】 407 千円（488 千円）		

2 自己評価

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ団体（オーシャンズ、シャイニーズ）に対し、補助金を交付し、団体の活動を促進することができた。（1 団体 100,000 円） ・スポーツ推進委員の活動として、村スポーツ推進委員の自主事業を開催したほか、久慈地区スポーツ交流会に委員 4 名が参加し、他市町村との交流を深めることができた。 ・B&G 財団事業として、「水辺の安全教室・SUP 体験会」、「郷土教育学習」等を開催し、スポーツを通じた体験学習の機会を提供することができた。 		
課題	年齢や性別等を考慮し、それぞれのニーズに合ったスポーツ機会の提供を行う必要がある。		
評価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 自己評価の課題は、今後取り組むべき内容であり、当該年度における事業は目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 補助金交付などを今後も継続するとともに、活動への支援にも取り組む。また、年齢や性別等を考慮し、ニーズに合ったスポーツ機会の提供を検討する。
----	---	--

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	32	事業名	体育関連施設の整備
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	9	多様な健康づくりとスポーツの振興
	取組	9-1	多様な生涯スポーツの推進体制の整備
事業目的及び取組状況	【事業目的】 体育施設について、利用者のニーズに応じた改善を行うことで、利用機会の拡大と効率的な施設活用を図る。		
	【取組状況（前年度数値）】 体育施設の維持・修繕など、施設整備の観点から健康づくりを振興する。		
	【決算額（前年度数値）】 10,831千円（9,399千円）		

2 自己評価

成果	社会体育館の屋外消火栓更新工事、北緯40度運動公園野球場改修工事（グラウンド整地）を行い、利用機会の拡大、効率的な施設の活用を図ることができた。また、北緯40度運動公園多目的グラウンドの施設廃止に伴い、村民グラウンドの整備工事も行った。今後は、村民の新たなスポーツ活動の場としての活用が期待される。		
課題	B&G 海洋センターは避難所として指定され、災害対策本部の代替施設としても位置づけられていることから、施設への空調設備導入を検討する。また、脱炭素社会の実現に向けた省エネ化（照明のLED化）等についても検討していく必要がある。 施設の老朽化対策としては、建物の長寿命化を図るための定期的なメンテナンス、劣化状況の把握、適時の修繕・改修が必要となっている。		
評価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 自己評価の課題は、今後取り組むべき内容であり、当該年度における事業は目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 B&G 海洋センターは避難所として指定され、災害対策本部の代替施設としても位置づけられていることから、施設への空調設備導入を検討する。また、脱炭素社会の実現に向けた省エネ化（照明のLED化）等についても検討していく必要がある。 施設の老朽化対策としては、建物の長寿命化を図るための定期的なメンテナンス、劣化状況の把握、適時の修繕・改修が必要となっている。
----	---	---

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号		33	事業名	スポーツ教室等開催事業	
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅲ	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）		
	主要施策	9	多様な健康づくりとスポーツの振興		
	取組	9-2	多様なスポーツ活動を通じた交流促進		
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 各種スポーツ教室等の開催により、子どもから高齢者までスポーツ活動ができる環境を整え、健康で活力ある地域づくりに寄与する。				
	【取組状況（前年度数値）】 ○スポーツ教室等の開催 ・通年開催の教室（7教室） 開催回数：301回 参加者：延べ3,073名 ・短期間開催の教室（1競技） 開催回数：5回 参加者：延べ68名 ・単発開催の講習会（2競技） 開催回数：4回 参加者：延べ69名 ・単発開催の体験会（1競技） 開催回数：1回 参加者：16名				
	【決算額（前年度数値）】 2,805千円（2,892千円）				

2 自己評価

成果	スポーツ教室の開催により、スポーツ活動の機会を提供することができた。また、各教室の指導者に対して、教室で必要とされる物品等を調査した上で購入したことにより、指導の質の向上を図ることができた。 各競技の講習会や体験会を開催し、村内だけでなく近隣市町村からの参加も多くあり、地域間の交流促進や競技への関心の高まりといった成果が見られた。		
課題	競技に対するニーズはあるものの、指導者が見つからないため教室の開催に至っていない現状がある。指導者の確保及び育成が今後の課題である。		
評価	A	【評価理由】 スポーツクラブ会員等のニーズを把握し、そのニーズに対応した各種の教室事業を計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 自己評価の課題は今後取り組むべき内容であり、当該年度における事業は目的に沿って実施され目標を達成している。自己評価は「A」は妥当である。なお、指導者の早期確保に努めていただきたい。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 指導者の確保及び育成を行い、より質の高い教室を開催できるよう取り組んでいく。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	34	事業名	多様なスポーツを通じた交流促進
教育大綱の位置付け	基本方針	Ⅲ	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	9	多様な健康づくりとスポーツの振興
	取組	9-2	多様なスポーツ活動を通じた交流促進
事業目的及び取組状況	【事業目的】 生涯スポーツを普及し、健康増進と体力の向上を図り、生活を明るく豊かにすることを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 第 10 回教育長杯マレット・ゴルフ大会 6 月 1 日（土） 参加者 25 名 第 10 回村長杯グラウンド・ゴルフ大会 7 月 7 日（日） 参加者 25 名 第 70 回村長旗争奪地区対抗野球大会 8 月 14 日（水） 参加 7 チーム 第 31 回はまゆりマラソン大会 10 月 5 日（土） 参加者 125 名 B&G 財団会長賞屋内グラウンド・ゴルフ大会 2 月 16 日（日） 参加者 27 名		
	【決算額（前年度数値）】 186 千円（96 千円）		

2 自己評価

成果	参加者が身体を動かす機会となり、健康意識の向上に繋がった。また、各種スポーツ大会を開催し、スポーツを通じた交流の場を提供することができた。		
課題	参加者の減少や固定化が見られるため、今後は周知・募集方法の見直し、大会の在り方について検討が必要である。		
評価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 自己評価の課題は人口減少や少子高齢化によるもので、他の事業においても共通した社会課題である。計画した事業は目的に沿って実施され目標を達成している。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 イベント前に無料で健康診断や体力測定を実施するなど、参加者の健康意識を高めるとともに、ターゲットのニーズを把握して内容の改善を図る。また、親子参加型のスポーツイベントを開催するなど、参加者の確保を目指す。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	35	事業名	文化財の保護と活用
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	10	伝統文化と芸術文化の振興
	取組	10-1	歴史、文化の振興と継承
事業目的及び取組状況	【事業目的】 郷土の歴史、文化を把握し、地域文化に対する認識を深め、先人から受け継がれてきた文化財を後世に伝え残すことを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○文化財保護委員会 出席者：委員 3 名、事務局 4 名 内容：①令和 5 年度事業報告 ②令和 6 年度事業計画 ○文化財の滅失対策 特別天然記念物ニホンカモシカの滅失対応 ○文化財調査・観察 ①夫婦杉の計測@鶴鳥神社 参加者：委員 2 名、事務局 4 名 ②チョウセンアカシジミ成蝶観察会 @芦生地内（金子様宅裏） 参加者：小学 3 年 4 名、教職員 文化財保護委員 3 名 ③チョウセンアカシジミ産卵数調査会@芦生地内（金子様宅裏） 参加者：小 3・4 年生 18 名、文化財保護委員 2 名、事務局 1 名		
	【決算額（前年度数値）】 216 千円（99 千円）		

2 自己評価

成果	例年どおり小学校 3 年生による保護活動を実施することができた。例年より蝶の数は少なかったが、絶滅危惧種であるこの蝶の生態を実感することができ、保護活動の重要性を学ぶことができた。		
課題	保護活動を継続するための後継者や担い手の育成が課題となっている。子どもだけでなく、一般に対する保護活動の展開が必要である。また、保護活動の引継ぎや村内生息地の環境整備等も課題である。		
評価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	A	【委員意見】 自己評価の課題は、今後、文化財保護活動の中で解消すべき内容であり、当該年度における事業は目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。
----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方針	2	【今後の主な取組】 文化財保護委員会を中心に、子どもだけでなく、一般に対する保護活動の展開など、保護活動の継承、担い手の育成や村内生息地の環境整備等、今後も継続していく。
----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	36	事業名	鶴鳥神楽の保存と伝承
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅲ 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）	
	主要施策	10 伝統文化と芸術文化の振興	
	取組	10-1 歴史、文化の振興と継承	
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 国指定重要無形民俗文化財の保存活動を担う鶴鳥神楽保存会の活動支援、後継者の確保や育成支援を行い、伝統芸能の継承を目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○鶴鳥神楽保存会活動補助金 補助額 200,000 円 ○国指定 10 周年記念事業 補助額 2,900,000 円 ・衣装、用具の修理新調着物 6 着、烏帽子 6 頭、笛 6 本、太鼓 1 張 ・映像記録保存、動画制作、ハードディスク 1 台、DVD20 枚 ・記念記録誌の作成 200 部 ・記念公演の開催 ①ふるさと普代会 70 名 ②国民宿舎くろさき荘 100 名 ゲスト：岳神楽（早池峰神楽）		
	【決算額（前年度数値）】 3, 100 千円（200 千円）		

2 自己評価

成	果	国指定 10 周年事業にて、資機材の充実、記録保存資料、記念講演の開催とすべて鶴鳥神楽への補助金として実施し、充実の事業内容であった。
課	題	後継者の育成や団体の研鑽のための活動機会を創出するとともに、今後においてはユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取り組みが必要となる。
評 価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。

3 点検評価委員の評価

評 価	A	<p>【委員意見】</p> <p>自己評価の課題は、今後取り組むべき内容であり、当該年度における事業は目的に沿って実施されており、目標を達成している。自己評価は「B」であるが、委員評価は「A」とする。</p>
-----	---	--

4 方針及び今後の主な取組

方 針	2	<p>【今後の主な取組】</p> <p>ユネスコ無形文化遺産への登録に向け、保存会の活動機会の創出を継続し、様々な形で活動を支援していく。</p>
-----	---	---

令和7年度点検評価シート（令和6年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号	37	事業名	芸術文化活動の促進
教育大綱の位置付け	基本方針	III	誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）
	主要施策	10	伝統文化と芸術文化の振興
	取組	10-2	芸術文化活動の促進
事業目的及び取組状況	【事業目的】 青少年の芸術文化活動への興味関心を高め、一人ひとりの感性を育てる。また、芸術文化団体の自主的活動の更なる促進と相互の連携を図り、芸術文化事業の普及を図ることを目的とする。		
	【取組状況（前年度数値）】 ○文化祭の開催 (1)文化部門：作品展示5名20団体 (2)表彰部門：実施なし (3)啓発部門：7コーナー (4)ステージ部門：13組 (5)出店コーナー：11店舗 (6)体験部門：10コーナー (7)併催事業：三陸鉄道開業40周年写真展 陸中黒埼灯台フォト絵画コンテスト一般審査 ○青少年劇場の開催 内容：オペラってなあに？@普代中体育館 参加者：小学生4年生～中学生 ○芸術文化協会総会 内容：令和5年度事業・決算報告及び令和6年度計画・予算案等の審議 自主事業：なし ○七頭舞育成会活動補助金 補助金400千円（中野流鶴鳥七頭舞育成会） 活動内容：継承活動、ふだいまつり出演、村文化祭出演、県中文祭への出演 仙台市郷土芸能イベント出演		
	【決算額（前年度数値）】 1,231千円（944千円）		

2 自己評価

成果	文化祭では展示部門で三鉄企画や灯台コンテストなど、例年より充実した内容であった。また、屋外体験など好評な部門・コーナーは継続拡充し実施することができた。さらに、中野流鶴鳥七頭舞育成会の出演機会が増え、観覧者からも好評であった。		
課題	文化祭は芸術文化に触れる機会となっているが、内容がマンネリ化しており、新たな取組等が必要である。 七頭舞育成会の参加生徒が減少しており、継承活動と指導者育成、体制強化が必要である。		
評価	B	【評価理由】 概ね計画通りに実施した。	

3 点検評価委員の評価

評価	B	【委員意見】 事業の目的に沿って実施されており、概ね目標を達成している。自己評価「B」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 文化祭の内容について実行委員会の中で建設的な意見交換を行いながら、事業を展開していく。七頭舞は育成会を中心に間口を広げる取組を行っていく。
----	---	--

令和 7 年度点検評価シート（令和 6 年度事務事業分）

1 事業情報

事業番号		38	事業名	男女共同参画事業
教育大綱の 位置付け	基本方針	Ⅲ 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）		
	主要施策	11 男女共同参画社会の推進		
	取組	11-1 男女共同参画の意識醸成 11-2 女性の意見の積極的な反映③ 11-3 男女がともに働きやすい条件の整備		
事業目的 及び取組状況	【事業目的】 県が認定した男女共同参画サポーターの自主活動の活性化に向けた支援を行い、地域への浸透を図ることを目的とする。			
	【取組状況（前年度数値）】 事業実施なし			
	【決算額（前年度数値）】 0千円（0千円）			

2 自己評価

成果	特記事項なし（平成 29 年度以降事業未実施）		
課題	村の男女共同参画計画が改定されておらず、平成 29 年度以降事業が未実施となっている。男女共同参画の実現に向けた具体的取組・方針性等について、協議・検討が必要である。		
評価	D	【評価理由】 未実施	

3 点検評価委員の評価

評価	D	【委員意見】 男女共同参画社会の実現に向け、推進部署の検討及び計画策定においては全庁的な取り組みをいただきたい。事業は未実施であるため、自己評価「D」は妥当である。
----	---	---

4 方針及び今後の主な取組

方針	3	【今後の主な取組】 まずは、男女共同参画の計画策定に向け取り組み、県や関連団体が実施する事業を活用しながら取り組みを進める。
----	---	---

IV その他

1 第2期普代村教育大綱（令和3年度～令和7年度）

普代村の教育ビジョン

普代村は、地域と共にあり、地域の力を生かし、地域の核となる学校、そして地域も学校からも力をもらい、学校と地域が一体となって活力を生み出していく「普代型スクール・コミュニティ」の実現を目指す。

子ども園・学校教育基本目標

「育ちあい 助けあい 認めあい 愛がいっぱい普代っ子」の育成

- 夢をもち、進んで学ぶ、元気な子ども
- 思いやりをもち、心をひらき、笑顔であいさつする子ども
- 自信をもち、たがいの良さを知り、共に生きる子ども

生涯学習プランの推進目標

誰もがいつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができる体制づくりと村の大切な伝統や文化財の保存と活用を目指す。

- 家庭教育力の向上
- 子どもを育む地域教育力の向上
- 健康づくりとスポーツの推進
- 生きがいづくりと多様な学習活動の振興と支援
- 伝統文化の継承と芸術の振興
- 地域社会の変化に対応する学習機会の推進

基本方針

第5次普代村 総合発展計画との整合を図るため、同計画における教育分野の基本目標「学ぶ喜びを村づくりにつなげよう」の3つの基本施策を、第2期普代村教育大綱の3つの基本方針としています。

1) 健康な体・豊かな心を育む就学前教育を充実する（就学前教育）

就学前の子どもたちが健やかに育ち、社会との関わり方や生きる力の基礎を育むため、普代村認定こども園はまゆり子ども園での保育・教育内容の充実を図るとともに、家庭や地域との連携をさらに深めながら開かれた子育て環境づくりを推進します。

2) 未来を担う子どもたちの学びの環境を充実する（学校等教育）

幼児教育を含めた幼小中一貫教育の具体的な体制整備や小中一貫校の建設をはじめ、子ども一人ひとりへのきめ細かなサポート、社会状況の変化に応じたICT活用など時代の変化に対応した村全体の教育環境の向上に努めます。

3) 誰もが学べる多様な学習環境を充実する（社会教育・体育、歴史・芸術文化、男女共同参画）

人口減少、少子高齢化、社会構造の急激な変化などの課題に的確に対応していくため、村民の知恵と力は貴重な村の財産であることから生涯学習を通じた主体的・自立的に地域づくりに関われる仕組みづくりの構築に向け、その推進に努めます。

施策の体系

基本方針	主要施策	取組
I 健康な体・豊かな心を育む 就学前教育を充実する（就 学前教育）	1 保育・教育内容の充実	1-1 子どもの育ちの場の充実 1-2 幼小中連携強化の促進
	2 家庭や地域の教育力の向上	2-1 家庭教育の充実 2-2 地域と一体となった子育て支援
II 未来を担う子ども達の学 びの環境を充実する（学校 等教育）	3 創造的な子ども園、学校経営の 推進	3-1 特色ある子ども園、学校経営の推進 3-2 明るく活力ある教育環境の構築 3-3 思いやりの心を育てる教育指導の 充実
	4 保育士・教職員の資質の向上	4-1 幼少中連携の促進 4-2 指導力・授業力の向上
	5 特別支援教育の推進	5-1 特別に支援が執拗な幼児・児童・生 徒への適切な支援 5-2 特別支援教育の充実
	6 児童生徒の健全な育成	6-1 育ちあう子どもの育成 6-2 助けあう子どもの育成 6-3 認めあう子どもの育成
III 誰もが学べる多様な学習 環境を充実する（社会教 育・体育、歴史・芸術文化、 男女共同参画）	7 社会教育と学校教育の連携推 進	7-1 家庭教育力の向上 7-2 子どもを育む地域教育力の向上
	8 生きがいづくりと多様な学習 活動の振興	8-1 生涯学習社会の推進体制の整備 8-2 社会教育団体の育成と活動支援 8-3 生涯学習推進体制の整備 8-4 多様な学習活動の提供
	9 多様な健康づくりとスポーツ の振興	9-1 多様な生涯スポーツの推進体制の 整備 9-2 多様なスポーツ活動を通じた交流 促進
	10 伝統文化と芸術文化の振興	10-1 歴史、文化の振興と継承 10-2 芸術文化活動の促進
	11 男女共同参画社会の推進	11-1 男女共同参画の意識醸成 11-2 女性の意見の積極的な反映 11-3 男女がともに働きやすい条件の整 備

2 普代村教育委員会の点検・評価実施要領

普代村教育委員会の点検・評価実施要領

(趣旨)

第1条 この要領は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等（以下「点検及び評価等」という。）を実施し、効率的かつ効果的な教育行政の推進を図ることを目的とする。

(点検及び評価等の対象)

第2条 点検及び評価等は、毎年度策定する「普代村教育基本方針」に基づき実施する施策及び事業を対象とする。

(点検及び評価等の方法)

第3条 点検及び評価等は、毎年度実施し、前年度の施策及び事業の総括を行うとともに、課題や今後の取組みを明確化するものとする。

2 教育委員会は、施策及び事業に関し、自己評価を行うとともに、委員に説明を行う。委員はそれらを参考に委員会としての評価を行うものとする。

(点検評価委員)

第4条 教育に関する学識経験を有するものの知見を活用するため、点検評価委員（以下「委員」という。）の定数を3名以内とする。

2 点検評価委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

3 点検評価委員の任期は、3年とする。

(公表等)

第5条 教育委員会は、点検及び評価等を行った後、その結果を取りまとめた報告書を作成し、普代村議会に提出するとともに、村民に公表するものとする。

附 則

この要領は、平成21年4月1日から施行する。

この要領は、平成23年5月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

【自己評価の基準】

- A：概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。
- B：ほぼ目標を達成できたが、改善の余地がある。
- C：目標をあまり達成できなかったので、改善を要する。
- D：目標を達成できなかった。

【今後の方針】

- 1：さらに重点化する
- 2：現状のまま継続する
- 3：見直しの上、継続する
- 4：事業の縮小・休止を検討する
- 5：終了・完了

